

「平成18年度専攻科研究論文」第10回公開発表会

開催にあたって

高等専門学校は中学校を卒業して、子供から大人へと成長する、最も伸びる盛りの5年間に、周到に計画・整備された教育プログラムに沿って、優秀な教職員が大学にも劣らない充実した設備と施設を使って、高度な理論的基礎科目の講義と先端的な科学技術に関する豊富な実験・実習を通じて、創造力豊かな高度専門技術者を養成する、世界的にも珍しい高等教育機関です。

昨年五月、八つの大学、高専を訪問したOECD(経済協力開発機構)の調査団は「グローバル水準からみても高専の教育はレベルが高く、カリキュラム、教育方法、教員の情熱全てが揃っている。技術者養成機関として他国に例のないユニークなもので、他のOECD加盟国も学ぶべきものがある」と高く評価しています。

北九州高専も昭和40年設立以来、5千名を超える優秀な人材を世に送り出してきました。この間、国際的経済競争が激化するにつれて、高度な科学技術が我が国の明日を託せる唯一の有効な手段であることが再確認され、高専も更に高度な技術開発能力を持った人材を育成する必要性が高まり、本校にも平成8年、生産工学専攻、制御工学専攻、化学工学専攻(現在、物質化学工学専攻)の三専攻からなる2年制の専攻科が設置されました。

5年間の本科の教育を基礎コースとするならば、専攻科は応用コースと言うべきもので、本科のクラス一斉のお仕着せ教育が主体であるのに対して、学生一人一人が自ら問題を発掘し、知恵と情報を総動員して自力で独自の解決策を見出す高度専門技術者に必要不可欠な能力の涵養に主眼が置かれます。専攻科で2年間にわたって取り組む「特別研究」はその集大成と言えます。

平成16年全国55校の国立高専はまとまって一つの独立行政法人となり、大学と同じく高等教育機関の一員としての役割が法律で規定され、従来の学生の教育に加えて、教育研究活動を通じた地域社会への貢献も業務として明文化されました。

本校も学生教育だけに留まらず、開かれた「北九州高専」を目指して、地域社会との連携・協力を積極的に推進して地域にも大いに貢献していきたいと考えています。

この発表会は本校の教育研究の具体的内容や教員や施設設備など本校が持つ資産を知って戴く良い機会でもあります。

地域産業界に密着したテーマは実践的技術者養成を目指す高専専攻科の研究課題として教育効果の面からも極めて有用であり、企業の方々のご意見やご提案は非常に貴重な糧や参考になることは申すまでもありません。

お陰様で今年は第10回を迎えました。ご多用中とは存じますが、是非御参加頂き、学生や教員の励みや反省に繋がる忌憚りの無いご意見やご提言を給わりますようお願い申し上げます。

平成19年1月

北九州工業高等専門学校

校長 陣内 靖介